

日本タンカー	永洋丸	副 藤佐田	徳三	共立汽船	萬代丸	油 差田	中福藏	正和汽船	祝丸	水長石崎	小右衛門
同	同	舵 夫 藤 幸	同	近海郵船	甲陽丸	石炭夫金	鳳 花	佐藤國汽船	擇捉丸	夫久保	存一
辰馬汽船	綾葉丸	石炭夫石丸	保	濱口汽船	昭天丸	同	中村隆	大洋海運	ブラッセル丸	石 夫高	村石 秋
岡田海運	第三信洋丸	火 夫 實 柳 榮	榮	山下汽船	嶋島丸	料理人小	屋 定 吉	山下汽船	あんです丸	同	同
中村組	八十川丸	甲 部古橋	勝 憲	川崎汽船	ちやいな丸	火 夫 系 藤 敏 明	同	帝國汽船	第二福井丸	水 夫 肥 後	盛 吉
日出汽船	勢州丸	火 夫 金 富 淳	淳	東洋汽船	福洋丸	同	上村研吉	大洋海運	大安丸	石 夫 明 治 三 男	同
甲村組	第五雲海丸	甲 船長 野 常 松	松	松陽汽船	鳳成丸	同	高木繁美	松浦汽船	富丸	補 磯 島 羽 計 一	同
日吉海運	明星丸	水 夫 石 井 清 一	一	白阪汽船	大海丸	料理人 大 八 木 基 三 郎	同	同	同	同	同
三寶汽船	佐賀丸	給 什 伊 崎 一	一	宇都宮回漕	薩摩丸	水 夫 三 浦 捨 郎	同	同	同	同	同
岡崎汽船	第二朝香丸	水 夫 君 元 盛 一	一	小川汽船	子山丸	火 夫 三 浦 五 郎	同	同	同	同	同
東和汽船	昭榮丸	石炭夫 藤 本 重 松	松	南洋郵船	チエリ丸	水 夫 白 石 榮	同	同	同	同	同
八馬汽船	第三多聞丸	水 夫 畑 政治 郎	郎	大同海運	大安丸	石炭夫 明 治 三 男	同	同	同	同	同
橋本汽船	龍神丸	火 夫 小 宮 山 文 太 郎	郎	同	ブラッセル丸	同	高 村 石 秋	鹿兒島郵船	順吉丸	水 夫 井 上 競	同
藤岡船	大安丸	火 夫 八 山 信 正	正	中村組	第二雲洋丸	水 夫 河 島 淺	同	東洋捕鯨	昭和丸	火 夫 西 藤 百 合 太	同
同	同	水 夫 碑 好 香	香	石原熊栗	ハーブル丸	火 夫 籠 田 勝 二	同	樺太汽船	第七平榮丸	水 夫 綾 部 虎 雄	同
白井商店	吉浦丸	火 夫 宮 崎 清 一	一	日出汽船	相州丸	火 夫 高 山 勝 二	同	正和汽船	祝丸	火 夫 水 野 秀 雄	同
八馬汽船	第三多聞丸	差 小 柳 留 吉	吉	宇都宮回漕	薩摩丸	補 磯 島 川 勝 利	同	福洋汽船	岡田丸	同	同

教育出版部報告

昨年に引き続き徒らにかまびすしき非常時の聲に脅えて、客観的には階級性を放棄せしめんとする所謂國家主義乃至日本主義等之を要するにファッショニスムの色彩極めて濃厚であつた本年度に於て、それら一切の假面を白日の下に曝き、以て組合員大衆を絶へず階級的に誤らざらしめたことは教育出版部のもつ重大なる役割であつたと云はねばならぬ。

健實なる労働組合主義の大旗の下に、而かも國情國民性に立脚せる本組合運動をよく組合員に徹底せしめ得た所以のものは機關誌「海員」の發行と茶話會講演會を通じての組合意識の高揚であつた。

機關誌「海員」に於ては毎號組合の指導理論及び當面せる諸問題に對する組合の態度乃至は時事問題の批判解説等を行ひ、船内通信によつて組合員に消息を傳へ得た。而して掲載記事中屢々政府當局によつて注意戒飭をうけた内容のあつたことは、本誌が如何に正しき階級性を把持し、以て、解放運動の確固たる指導的言論機關であるかを物語るものであらう。

又組合意識の高揚及組合員の親睦は本支部に於ける定例乃至臨時茶話會によつて効果的に行はれた。かくて開催された茶話會總計六十回、出席した組合員總數は八千六百名に及んだ。又組合員の要望により兵庫縣相生及各地組合指定宿泊所等に於て移動茶話會を開催し、組織部員並教育出版部員出席して、本組合の海上労働運動に對する方針及態度を中心に忌憚なき意見希望等と交換し得て、組合運動の圓滑なる發展の資となした。

其他本教育出版部の有する使命の重大なるに鑑み、成文化せる船員兵役法の詳細なる手續の解説書及び、九年三月に愈々實施を見るに至つた船舶安全法が、海員に對して重大なる利害關係を持ち、海員としてこの法律を常識的に持つことの必要を認め、同法の解説書を出梓の準備を進めてゐる。